

編集後記

第一七八号をお届け致します。本来の発行より一ヶ月ほど遅れ会員ほかにご迷惑をおかけ致しました。

今回は特に特集というわけではありませんが、中世の論考や中世の史料紹介を集めるかたちになりました。武田さんの論文は武家故実というこれまで地方史では取り上げてこなかったテーマを通じて、大友氏と中央との関係を明らかにしています。以下(2)と続きますので楽しみにしてください。桜井さんの論文は六郷山研究の整理を行い、新しい問題提起を行っています。最後の私と牛山さんの共同による史料紹介は『大分県史料』の補遺というべきもので、八坂荘の全体像や祭礼と名の関係を考える上で興味ある史料となると考えます。

会報は、六月四日の本年度大会の内容を載せております。大会の講演で小田富士雄氏が最近の九州官衙遺跡の発掘や保存状況を明らかにする中で、海部郡衙ともいわれる中安遺跡の価値を明らかにしました。しかし、八月半ばに遺跡はほとんど取り壊されることが決定しました。保存の難しさを痛感します。